

今日のみことば

□ 4月1日(日) サムエル記上 27章

ダビデは一時的でしたが、敵であるペリシテの地へのがれた敵地でも巧妙に立ち回り、同胞に益になるように働き、サウルが死ぬまでそこにいました。

□ 4月2日(月) サムエル記上 28章

サウルは神から何の答えを得ることもできず、危険を冒してシュネムに行き、女霊媒師に占わせました。サウルは自分の生涯にはもはや死以外にはないことを確信しました。

□ 4月3日(火) サムエル記上 29章

一時身を寄せたアキシュのもとからイスラエルとの戦いには出ることはなく、同国人と相対するという厄介からは逃れることができた。

□ 4月4日(水) サムエル記上 30章

ペリシテ軍を離脱したダビデは留守を襲われたが、奴隷の報告を通して勝利の道へと導かれ、奪われたすべてのものは取り戻された。

□ 4月5日(木) サムエル記上 31章

ペリシテとの決戦はイスラエルの無残な敗北に終わった。サウルは神の民をペリシテから救うために選ばれた器であった。しかし神を離れた王からは、その力は失われた。

□ 4月6日(金) サムエル記下 1章

ダビデはサウルとヨナタンの死を偲んで哀悼の歌を詠んだ。題は「弓」です。二人の勇士の栄誉を最後まで傷つけないように、ダビデの頭の中はいつもイスラエルの一致でした。

□ 4月7日(土) サムエル記下 2章

サウルは死んだ。ダビデが王位に就くのは自明のことであったが、ダビデは神の特別な導きを求めた。このようにしてダビデはヘブロンであるユダの王位に就いた。

ろ ぼ No. 1861
2018年 4月 1日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

コロサイ3:1

あなた方は、キリストと共に復活させられたのですから、上にあるものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます。

「あなた方は、キリスト共に復活させられたのです」との言葉をどれほどしっかりと受け止めておられますか。キリスト復活の出来事は、私にとって何よりもうれしい、喜ばしい出来事ですが、それだけではなく、私もともにその復活にあずかっているのだと言われることです。復活祭イースターはキリスト・イエスが、週の初めの日の朝、イエスの遺体を清めるために、急いで墓を訪れた婦人たちにみ使いが「主イエスはここにはおられない」と告げたとおりに、イエスはよみがえられました。ほんとうにうれしい喜びの日です。

この年のイースターの朝は、その意味では本当に思い出に残る4月1日の朝です。新しい年の初めを、復活の主イエスが、共に歩み始めて下さる喜びもさることながら、新しいいのちの朝を迎えさせていただく喜びをこそ、覚えさせたいいただき感謝させていただくことでした。

あわただしく十字架から取り下ろして、墓に葬ったイエスの遺体を清めたいと婦人たちが、墓を訪れましたが、イエスはそこにおられず、「ガリラヤで待っている」との伝言を、弟子たちに伝えるようにと言われたのでした。その時の光景を、マルコ福音書は「婦人たちは、墓を出て逃げ去った。震え上がり、正気を失っていた」(マルコ16:9)と記していますが、マタイ福音書は「婦人たちは、恐れながらも大いに喜び、急いで墓を立ち去

り、弟子たちに知らせるために走っていった」(マタイ28:8)と記しています。その違いに私は驚かせていただきながら、福音書記者の読者への思いを聞き取らせていただくことでした。マルコ福音書記者は、絶えずイエスの出来事に驚きをもって接する人々が、しっかりそれを受け止めることを通して、主の福音の恵みに導かれていった姿を伝えてくれた姿勢に心を留めさせていただくのでした。

イエスの復活の出来事は、私たちの中では最高に驚くべき出来事です。確かにイエスは、墓に葬られたラザロをよみがえらされました。弟子たちはイエスの力ある業をおしました。しかしそこで彼らが、神さまの御心を知ることはありませんでした。神さまはすべての出来事を通して、その御心を、愛しておられることを、帰ってくることを願い、待っておいででした。その思いの極みの発露が、御子イエスの十字架の贖いの死でした。信じて受け入れる私たちに、主なる神さまはそれで終わりではないと言われます。

ヨハネは「神から生まれた人は皆、世に打ち勝つからです。世に打ち勝つ勝利、それはわたしたちの信仰です。子であると信じるものではありませんか」(ヨハネ5:4-5)と言います。復活のイエスのいのちは私たちのものです。恐れることなく、しっかりとイエスにつながって、永遠のいのちにいたる道を歩むんです。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————

コリントー 1:18-31 はりつけにされているキリストを誇れ
キリスト・イエスの復活を心から喜び、感謝をささげた私たちです。しかし私たちが語る福音はこれではありません。福音を信じて、主の祝福に満ち溢れさせていただく、御子の復活の出来事・喜びのイースターは、主キリストの苦悩の末にいただいた喜びです。

忘れてはならないのは、みじめな、ほんとうにぼろのように捨てられたイエスさまの姿こそ、しっかりと私たちは見つめさせていただきねばならないのです。パウロは「わたしたちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝えています」と言いました。「十字架の言葉は、滅んでいく者にとっては愚かなものですが、わたしたち救われる者には神の力です」と語るのです。神さまはこのお方をキリスト、救い主とされました。「ユダヤ人はしるしを求め、ギリシャ人は知恵を探しますが、わたしたちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝え」るのです。



Read God's Word.

次週の聖書・説教

ヨブ 2:9-10 神から幸いも、災いも